

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	1号館
所在地	都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町村受理日	平成23年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/informationPublic.do?JCD=4570200917&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんへの尊敬の念を忘れず、人生の先輩として教を乞う事もあり、日々共に笑い合える関係作りにも努めている。食事は献立から職員が立てる事により、栄養面を配慮しながらも、利用者さんの好みの物も組み込む事ができ、満足して頂いている声が多く聞かれる。個々の能力、意欲、体調に応じて清掃や洗濯物たみ、調理の補助として食材切り、出来上がった料理のつき分け、配膳、下膳、洗浄後の食器拭き等、職員と共に安全面に配慮しながら行い、参加後には必ずお礼の言葉を伝える事で、必要とされ、感謝される喜びを感じてもらえるように努めている。共同作業が苦手な利用者さんには、必要以上に他者との共同作業を押し付けず、自身の趣味の絵画や編み物を自室でも自由に行えるよう、必要物品を揃え、それぞれに楽しみのある生活を送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廊下に掲示された習字の作品は、外部の講師やボランティアに頼ることなく自助努力で実施されている。レクリエーション等を用いて、脳の機能や身体的な機能の維持・向上を図る援助活動の取組があり、利用者も楽しみの日課としている。食事については、献立から準備、つくる、食べる、片づけるまでを食事というとならえ方をし、そのプロセスを大事にした関係作りが行われている。職員も全員同席し、一緒に食事をしながら共有を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作り上げた理念をホールに掲げ、日々その実践につなげている。		共同作業等においても、理念の一つである「一人ひとりの生き方を大切に」を生かし、個人に無理強いしないケアに努め、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい祭、夏祭り、清掃等に参加し、交流の場を持っている。近くの美容室へ協力して頂き、希望者は散歩がてらに散髪へ行く事があり、美容師さんとも顔馴染みになっている。		地域の祭りや清掃等の行事には積極的に参加し、近くの理美容室を利用するなど、地域住民との交流を図る取組が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自分達が取り組んでいる認知症ケアについてや研修で学んできた事等、運営推進会議にて時折報告しているが、地域の方へ向けは特に行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、外部評価の意義や結果を議題としてあげ、話し合い、サービスの向上に努めている。		運営推進会議では、外部評価結果や改善の取組等を報告し、助言を受けるなどしているが、会議の開催が定期的に行われていない。	運営推進会議時において、メンバー全員で次の開催日を決めるなど、年6回以上の開催ができる取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、様々な意見を出してもらっている。		運営推進会議等で、市の担当者より意見やアドバイスを受けたりしている。また、介護認定の変更等で、市との日常的な接点を利用し、ホームの実情や要望を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「虐待防止法・身体拘束等の排除」に関するマニュアルがあり、身体拘束の定義を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		拘束についての研修やマニュアル等で身体拘束の定義を正しく理解し、実践につなげている。その中で利用者は、心身ともに明るく、のびのびとした生活を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義、具体的な行為を事業所内で学び、自分達の職場でそのような行為が行われていないか、振り返る機会を持つようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成22年度は、権利擁護に関する制度の理解と活用について、ホーム内外で学ぶ機会が持てなかった。新しい職員が殆どなので、まず、ホーム内での勉強会を開催していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、相手方の話をしっかり聞くことで、理解、納得した上での契約締結、解約を図っている。改定等は文章等で説明、郵送している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情処理担当者を置いている。又、ホーム内に市町村、県の苦情相談の窓口の電話番号を掲示している。すぐに対応できる意見、要望については、職員間で話し合いを行い、速やかに改善するよう努めている。	相談、苦情についての研修会にも参加している。運営推進会議で出された意見や要望を謙虚に受け止め、対応等を検討し、家族へ説明を行い承諾を得るなどして、意見の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者(管理者)が常に職員会議に出席し、会議で出た意見、提案等、改善可能な事は柔軟に対応している。	運営者が管理者となって、職員とともに常時携わりを持っていることで、職員の意見や要望は出しやすい状況や雰囲気があり、その対応にも早い段階から反映される体制がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が心身共に負担を感じる事なく仕事が出来るよう、職員や非常勤職員を十分に配置したり、利用者に目が行き届くよう配慮している。又、時間通り仕事が終わるよう、働きやすい環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合った研修参加の機会を設けている。又、希望する研修がある場合、勤務に支障がない限り受講出来るようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市内のグループホーム定例会があり、意見交換や情報交換する場に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所日よりゆっくり話す時間を持ち、ご本人の細かな表情や仕草も観察し、要求や不安を引き出せるよう声の掛け方や、接し方等模索しながら、利用者さん側から気軽に声を掛け、相談できる関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入所後も、ご家族の要望や不安を対話にて引き出し、思いを共有する事で、共に支援していく為の信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、利用者さんの身体的、精神的状態や、困っている事を把握しながら、ご本人とご家族が必要とされているサービスが行えるように支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんから生活の知恵や、物を大事にする事、言葉遣い、礼儀作法等、様々な事を学ぶ場面もあり、冗談を言い合い、笑い合う時間を持つ事で互いを必要とし、支えあう関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、それに対しての意見や要望をその後の介護計画へ活かしていると共に、解決すべき問題が浮上した場合には、ご家族から直接話をさせて頂いたり、職員と共に外出先へ出向いてもらったりと、協力を得られている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会は極稀ではあるが、ご家族等の面会時には、自室にてご本人と共にお茶を飲み、ゆっくり過ごせるように努めている。また、知人・友人の場合は特に、ご本人の尊厳が守られるように、相手に対する職員の対応にも配慮している。	家族や友人等の協力で、理美容室や温泉に行ったり、その時の利用者の心身の状況を判断し、自宅や実家を訪問するなどし、なじみの人や場所、回想の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性や状態を把握し、うまく関係を築けている時は、必要以上に踏み込まず見守り、介入が必要な場合には、職員を交えながらご本人の苦にならない程度で、他者とのコミュニケーションを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに、サービス利用終了後も継続的な関わりを必要としたケースはないが、ご本人やご家族からの相談があったり、必要である場合は対応する用意はある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族に要望を聞き、ご本人の希望をケアの主体として実践しており、各利用者さんの担当を決め、積極的にコミュニケーションを図る事で、状態、要望の変化に迅速に対応できるよう努めている。	利用者の日常の生活の様子や思いに関心を寄せている。援助活動のなかでもコミュニケーションを大切にし、意向の把握に努め、言葉で表せない利用者については、表情、視線、しぐさ等で察することができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族に生活歴等の情報を提供して頂き、日々の対話の中でご本人からも情報を引き出せるように努め、全職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ヶ月ごとに、日々のケース記録を見直してまとめる事により、個々の現状を把握できており、職員間で意見交換を行い、正確な情報の共有に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意見、要望を引き出し、面会に来られた際に、現状を説明し、ご家族からの意見や要望を聞き、ご本人の意向と共に、本人主体の介護計画を立てている。	介護計画は、本人や家族の意見や要望を引き出し作成はされているが、利用者の機能訓練や整容面の検討がカンファレンス等で確認できず、一部ケアの反映までには至っていない。	家族を交えたカンファレンス等を行い、利用者、家族の要望に沿ったケアにも期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録では表情や感情の変化等、細部まで記載し、それを一月毎にまとめ、現状を明確にした物を基に、会議で各利用者さんのケア方針について意見交換し、見直しを図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズが変化するに伴い、いかに支援していくか様々な視点から考え、ご家族の意向も取り入れながら協力を得て、ご本人が必要とされるサービスが受けられるように柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望する方は定期的に地域の美容室へ通っており、美容師さんとも顔なじみである。又、誕生会等のイベント毎に、地域のボランティアの方に訪問してもらう等、機会は多くないが交流を持っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族、ご本人と話し合い、希望する医療機関にて受診できるよう支援している。他院の場合、ご家族に送迎の協力を依頼している。	最初の聞き取りの中で、希望する医療機関を確認し、その医療機関と連携を取りながら支援している。ホームの協力医が掛かりつけの場合は、定期的な受診の支援も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に医療機関があり、常時連絡を取る事ができ、必要に応じて的確、迅速な対応をしてもらう事が可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した場合、担当職員はご家族や病院関係者から、ご本人の病状、心身の状態、回復の度合等の情報をもらい、早期退院できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として、終末期のケアは行わない事を原則としているが、専門的治療を伴わない場合、又は身体機能の悪化、病状の悪化等が見られ、年齢等を考慮して、ご家族が専門的治療を望まない場合、病院と連携しながらできるだけ医療(点滴や酸素等)、看護、介護を行っている。	ホームとして終末期ケアは行わないこととしているが、専門的な治療等を行わない場合は、その時点での利用者、家族の要望や状況に応じて、医療連携の下に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、常備しており、主治医への迅速な報告を徹底しているが、訓練を行っていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、昼・夜想定避難訓練を実施しており、その他にも利用者さんにも参加してもらい、自主避難訓練を定期的に行っている。事務所内に非常食等も常備している。	法人の年1回の総合訓練や2か月ごとに行うホームの避難訓練は、利用者も交え実施されているが、地域との協力体制が構築されるまでには至っていない。	運営推進会議や日ごろの地域との交わりの中で、災害対策について協力を求めて行く取組にも期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に人生の先輩として、利用者さん一人ひとりを敬う事を忘れずに、言葉遣いや、対応には気をつけているが、その中でおかしいと感じた場合は、その都度お互いに注意喚起するように心掛けている。	職員は日常の活動の中で、利用者の人権や誇りを損ねることがないように、利用者の立場にたった丁寧な言葉かけや対応に配慮し、プライバシー確保の徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢がある場合は、ご本人の言動をよく見て意思を尊重し、決め兼ねる時はご本人を主体に考え、少し提案も交えながら、自己決定出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者さんの意思を優先し、対応するように心掛けている。集団での活動が苦手な方には、自室での趣味活動を提案し、ご本人の意思に沿い、編み物等をして過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて身支度が出来る方に関しては、見守りのみ行い、介助が必要な方に関しても、好みに近い物の中から幾つか選択肢を提案し、ご本人の意思を尊重できるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望する方(全体の約半数の利用者さん)と共に、食材の下ごしらえをしており、積極的に包丁を持つとされる。配膳、注ぎ分け等も加勢してもらい、職員も助けられている。又、職員も共に食す事により、形や味の工夫へ繋げており、会話も弾む。	献立、準備、つくる、食べる、片づけるまでを食事というとらえ方で、その過程を大事にする関係作りを行っている。職員も全員同席し、支援を兼ねて同じ食事をしながら共有を図っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録し、水分摂取量が極端に少ない方は、好みの物を提供する等、工夫をしながら、1日の摂取量を計測する事で、変化を正確に把握する事が出来ている。また、魚、肉、野菜等バランス良く取り入れた献立になるよう配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアで義歯洗浄剤や、殺菌作用を目的に、うがいにお茶を使用し、声掛けや誘導、義歯の洗浄等、個々の能力に応じた支援をし、口腔内が清潔に保てるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は時間や、ご本人の様子を見ながらトイレ誘導を行い、体調に応じて出来る限りトイレでの排泄を促し、自立へ向けた支援を行っている。以前より排泄の失敗も減り、トイレでの排泄回数が増えてきている。	各居室にはトイレが設置され、その日の身体状況を把握しながらトイレでの排泄を促している。要介助の利用者については、チェック表を参考に誘導し、自立へ向けた排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のレクリエーションの中に、体操とゲームを通しての運動を取り入れており、参加を促している。日々の排便状況も個々にチェックしており、便秘が続く場合は、医師への相談が出来ている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決められており、好きな時には入れないが、時間内に声掛けをし、希望者から先に入ってもらえるようにしている。個々の室内に浴室があり、喜びの声が多く、満足してもらえている。	居室に浴室が設置され、プライバシーを含め安心、安全の入浴ができる。別棟にはリフト付き個浴もあり、安全対策の配慮も万全である。入浴拒否のある利用者の対応は、拒否原因を把握し、支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の部屋の空調管理をし、体調や気分に応じてご本人の意思を尊重し、いつでも安心して休息出来るように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方に変更があった場合は、必ず全職員に申し送り、確認し合っている。頓服薬の服薬時は、特に職員間で相談、医師への確認、様観の経過報告等の記録を徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒習慣のある方には、適量の梅酒の提供をしており、料理(食材切り)や清掃等、職員や他者と共に談笑しながら作業する機会を多く作っている。共同作業が苦手な方には、自室で趣味を活かした製作を提案し、ご本人の意思により実践している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候を見て、数名での散歩を行ったり、日用品の購入の為、共に車で出掛けたりする機会を作っている。時間内に行ける距離に限られるが、ご本人の希望により、普段より少し離れた場所まで車で花見に出かけたりする事もある。	日常の支援として近くを散歩したり、買い物などを行っている。年間を通して花見、コスモス見学、弁当持参でピクニックなどに出かけたり、家族等の協力で散髪や温泉等にも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方が自己での金銭管理はしておらず、買い物も個々の預かり金の中から職員が支払いをしている。自室に金銭を所持されている方は、品物を要求される時に、一緒に必要分のみ職員にお金を渡される事もある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が話を聞き、共に解決策を考慮した上で、ご本人より訴えがある場合は、自ら電話を掛けてもらえるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのテーブルを横並びにし、全員の顔が見渡せるように変更した所、以前よりご利用者間の会話が増えた。共に制作する壁面に、時季の物を取り入れて季節感を演出している。	キッチンが対面式になっているため、会話等しながら料理ができる。廊下には、習字の作品が掲示されたり、花火の作品や手作りの灯ろうなどがさりげなく置いてあり、季節感を感じてもらえるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さん同士で、玄関のソファにて語り合う事もあるが、居室を行き来するかホールにて談笑する事が多い。1人になりたい場合は、いつでも自室に戻り、静かに過ごせるよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすや布団等、ご家族に用意してもらい、馴染みの物を使用してもらっている。居室内のインテリア（花や写真、テーブル等）も、ご本人より希望が聞かれると、その都度ご家族に相談している。	居室には利用者の好きな歌手のポスターや写真が飾られたり、時計やメモ帳が置かれており、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等、自分の物と認識出来ており、排泄時はホールからでも自室へ行き、用を足す事ができている。同時に、「自己にて清掃する。」という意識もあり、実行できている。			